

# 年末向け注意喚起 県警

2010年1月から10月末までに、飲酒運転で摘発され、免許取り消しとなった処分者が1116人となり、前年同期426人の約3倍に上ったことが7日、県警交通部の調べで分かった。道路交通法改正で飲酒運転が厳罰化された影響だが、減少傾向だった飲酒運転の摘発そのものや飲酒絡みの事故も今年から増加に転じており、県全体の飲酒運転撲滅活動の見直しが進められている。

## 10月末前年比

県警によると、今年10月末の運転免許処分者は3288人（前年同期比31.5人減）と全体的には減少しているが、飲酒による処分者は1402人で、このペースでは09年の1579人を上回る勢いという。飲酒処分者の内訳は免許取り消しが1116人（同69.0人増）、免許停止が286人（同64.2減）となった。

た。90日間の免許停止だったアルコール呼気1.0以上が道交法改正により、即刻免許取り消しとなったことが影響しているという。

飲酒絡みの事故は10月末で126件となっており、09年の125件を上回った。飲酒運転の摘発も1762件で、前年の1725件を上回っている。

県警交通部は飲酒運転の摘発と事故の増加や免許取り消しによる経済的損失を憂慮しており、年末年始に飲酒運転しないよう広く呼び掛けている。

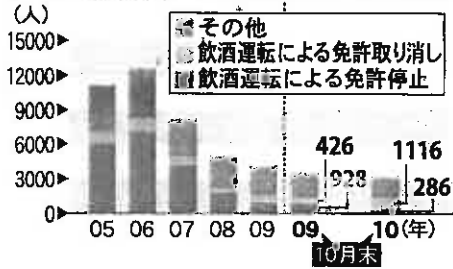
王亮 王求 楽斤 幸反

2010年(平成22年)12月9日 木曜日

# 飲酒運転

# 免許取り消し 3倍 1116人

運転免許に関する行政処分の執行状況



## 「依存症」疑い 3割

2008年に県内で免許停止、免許取り消し処分を受けた人数の約30〜40%にアルコール依存症の疑いがあることが8日、琉球病院(村上優院長、金武町)による「沖縄県における飲酒運転と多量飲酒・アルコール依存症に関する調査」の最終報告で分かった。

## 免停・取り消し

### 2008年

者649人(有効回答605人)、取り消し処分者562人(有効回答548人)に実施。世界保健機関(WHO)が作成したアルコール問題簡易検査を用いて、アルコール依存症の疑いを調べた。

調査結果では、免許処分者のうち32%(194人)、免許取り消し処分者のうち42%

## 琉球病院調査

(234人)でアルコール依存症の疑いがあった。アルコールでも免許取り消し処分者で24人、免許取り消し処分者で14人に依存症の疑いがあり県民生活に依存症が潜在化している可能性がうかがえる。

同院によると全国平均は5%という。村上院長は、「処分者には専門家や関係機関が個別に介入し、改善プログラムを実施しないと解決しない。依存症は「トラブルがないと気付かない」としている。